



## 何よりも健康第一 (11月20日 備中総合センター)

“生涯現役、終生健康”を目指して、健康づくり大会「健康びっちょう21」が開催されました。地域住民約140人が参加。大会の企画運営は、「健康なまちづくり応援団」(市民の実践的かつ自主的な健康づくりを応援する市民団体)のメンバー約20人が中心となり実施しました。大会では、地域住民から応募のあった「健康一行詩」の表彰、同応援団による健康体操、「笑いと健康」と題した落語家・雷門喜助さんの講演などが行われました。

## 成羽町美術館で吉備国大のゼミ講義 (11月24日 成羽町美術館)

吉備国際大学文化財修復国際協力学科の大原教授が館内の絵画やその修復方法を題材として、ゼミ生15人らに同館で公開授業を行いました。ゼミ生らは、額縁修復の作業方法や展示作品の説明にメモを取るなど、真剣そのものでした。大原教授は、同館所蔵の児島虎次郎の作品修復も数多く手掛けています。



方谷園を視察し説明を聞く参加者ら

## 財政再建を果たした“山田方谷”に学ぶ (11月12日～28日 文化交流館ほか)

山田方谷生誕200年を来年2月に控え、同記念事業実行委員会は、方谷の業績、精神を学び今後にかつぎの方策を創造するため多彩な事業を行いました。作家の童門冬二さんによる基調講演「方谷を今に生かす」やパネルディスカッション、方谷ゆかりの地を訪れる研修視察などを実施。また、たかはしフィルム・コミッションによる企画「こども映画塾」には、市内の小学生6グループ26人が参加し方谷を題材とした4コマ映画を製作発表しました。



楽しそうに4コマ映画づくりに取り組む子どもたち

## 困っている人の目となり耳となり (12月1日 文化交流館)

高梁市民生委員・児童委員委嘱状伝達式があり、152人が委嘱されました。秋岡市長が厚生労働大臣の委嘱状を一人ひとりに伝達。出席者全員により“民生委員信条”が唱和されました。任期は、12月1日から3年間。また、旧1市4町ごとの組織代表による同委員協議会が新たに設置され、会長の関安之さん(落合町阿部)をはじめ、各役員が決まりました。



## 光のパレード ~ゆららイルミネーション~ (11月10日～2月末 ゆらら)

市健康増進施設「朝霧温泉ゆらら」の中庭に、オープン4周年を記念して大イルミネーションがお目見えしました。11月10日から点灯されており、来場者の目を楽しませています。サンタやトナカイなどがカラフルに点滅し、まるでおとぎの国。電球の数は約7万5千個で、すべて従業員の手作業により飾られました。点灯は、日没から午後9時まで、来年2月末まで行われます。



大勢の観客でにぎわうマンガ絵ぶたまつり(今年8月14日)

## 「マンガ絵ぶた」で県民文化大賞受賞 (11月16日 市役所/市長報告)

地域文化の創造・継承に努める団体・個人を顕彰する「おやかま県民文化大賞」に川上町商工会が選ばれ市長に受賞報告がありました。同商工会は、青森のねぶたまつりをヒントにした「マンガ絵ぶたまつり」を創設。平成7年から毎年夏に開催し今年で10回目を迎えました。本場青森県の岡山県人会の協力もあり、この夢とロマンあふれるまちづくりの継承発展が期待されています。



## 市民と学生の交流フェスタ (11月14日 吉備国際大学)

学園文化都市づくり協議会の主催により「市民と学生の交流フェスタ」が行われました。親子連れからお年よりまで市民約80人と学生約20人が参加。紙パックを細かく刻んだものを材料にした「紙すきはがき作り」や「けん玉」、「ボウリング」などを一緒に楽しみました。同フェスタは、伊賀祭(学園祭)に合わせて毎年開催されており、今回で9回目。



## 人にやさしいまちに (11月17日 備中町布賀・長屋地区)

すべての人が安心して利用できる道路社会を目指し、車道や歩道の「バリアフリー総点検」が行われました。地元老人クラブや身体障害者福祉協会、県・市職員の道路管理担当者など34人が参加。歩道の段差や側溝のふた、ガードレールや道路標識の設置状況などを点検しました。視覚障害者も参加し、車いすに乗っての点検もありました。同事業は、平成10年度から高梁地方振興局管内で行われており、今年で管内を一巡しました。

